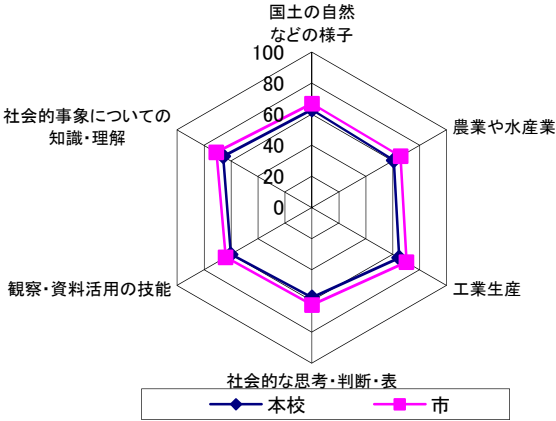


宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	国土の自然などの様子	62.9	66.7
	農業や水産業	60.6	65.8
	工業生産	64.7	70.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	57.8	62.7
	観察・資料活用 of 技能	60.2	64.1
	社会的事象についての知識・理解	65.9	70.9



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然などの様子	平均正答率が63%であり、あまり定着していないと思われる。日本の国土の位置や日本を囲む海洋や隣国についてはよく理解しているが、日本の気候の特徴や梅雨の理解、日本の河川の特徴などの問題で、極端に正答率が低かった。	地図や地球儀などを活用したことで、学習への興味・関心が高まり理解が進んだと考えられる。日本の気候や河川や山脈などの学習では、白地図等の活用をしなかったため、理解が不十分であったと思われる。プリント等でもう一度再確認して理解を高める。
農業や水産業	平均正答率が60%程度で、あまり定着していないと思われる。特に、漁業に関する問題での定着率の低さが目立った。この問題は、グラフから生産量の変化を指摘する内容なので、グラフの読み取りの力が大きく影響している。	こめ作りについてはよく理解しているが、水産業については、理解力不足が見られた。キーワードになることばを教科書や資料集を生かしながら、繰り返し扱っていく必要がある。また、デジタル教材やプリントなどを活用して、確認しながら指導していく。その際に、グラフの読み取りにも力を入れていく。
工業生産	平均正答率が65%程度で、あまり定着していないと思われる。市の平均と比較しても5%近く下がっている。自動車関係の内容はよくできているが、日本の工業地帯、特に中京工業地帯の理解が不足している。	工業生産については、資料の読み取りや複数の資料から判断することが苦手であると考えられる。教科書や資料集を活用し、図や表から読み取れることをまとめたり、そこから考えられることを考察したりする活動を増やしながら資料を生かす力をつけらるよう指導していく。